FRUITS 10月号 ... 1998年9月1日発行（毎月1回1日発売）

FRUiTS

10 1998

フルーツ

No.15

500yen



serial experiments lain

プロデューサー

上田 耕行

ueda yasuyuki

29才

今回は、テレビ東京で放送中のアニメ「serial experiments lain」のプロデューサーの上田さんにインタビューしました。コンピューターネットワークが発達した近未来で、主人公玲音（レイン）を中心としたドラマで、ネットワーク（ワイヤード）と現実（リアルワールド）の境界があやふやになっていく不思議な世界観のアニメ。残念ながら全国放送ではないけど、ディレクTVのAT-Xでの放映や9月にはビデオやDVDが発売される。

放映／毎週月曜日（25:15） テレビ東京

FR 「lain（レイン）」という作品は、どういうところから生まれたんですか？ 原作マンガがあったりとか、マンガ家の人が作っていたりとかとはちょっと違うようなんですけど。

上田 そうですね。僕のいる会社（パイオニアLDC）で、OVA（オリジナル・ビデオ・アニメーション）って言ってアニメーションのオリジナル企画をしている部署にいて、いわゆる原作とかがなくて、企画から作っているんです。その作品をテレビとか劇場に持っていく仕事をここ数年やってたんですよ。そういう仕事を何年かやっていて、アニメアニメしたアニメが続いたんで、ちょいと違うものでも作ろうよってことで企画しました。僕自身、もともとそんなにアニメーションのコアな人じゃないんで、自分の感覚で作る映像作品として作りたかったんです。で、その当時持っていたテーマとかを表現したいって思って。そういう意味でスタッフ集めにしても、通常、制作会社さんに相談するんですが、今回は人手を頼らずに自分の手でスタッフを見つけていったんです。例えばキャラクターデザインの絵を描いた安倍くんはたまたまインターネットのホームページで見つけて、けっこういけそうだったんで、スタッフが1人できて。

FR それまでは全然知らない人だったんですか？

上田 全然知らない。

FR 有名な人でもなかったんですか？

上田 同人誌の世界とかネットの世界では、ああ、あの人ねっていう程度で、まだプロデビューはしていなかったんです。「じゃあ中村橋の駅で待ち合わせしよう」って。

FR まだ学生の人ですか？

上田 今東京芸大の大学院生。

FR 専門は何をやっている人なんですか？

上田 日本画です。当時は大学生だったんです。それで絵描きが決まって。シナリオは、僕は企画書レベルしか書けないので、シリーズ全体っていうことになると、ちゃんとプロの人に書いてもらわないと仕方がないので、脚本家で小中千昭（なかちあき）さんっていう人に頼んで。彼とは以前仕事をして、個人的にもすごく好きな作家

友達募集

Ⓐ

トモダチ募集

こんにちわFRUITS読者のみなさん
わたしは15才高1の少女デス。
男のコと女のコ両方のトモダチが
欲しいデス。年齢・住所近い人でもOK。
返事は必ずかきますのでどうぞ
ヨロシクお願いします。
色々なことを語りあいましょう♥
プリクラ入りだとウレシイナ!!
★たくさんの手紙待ってマス★

《東京都 ドラミ 15才》

Ⓑ

トモダチぼしゅう

☆初めまして。私は、将来、デザイナーになりたいと思っている子です。
★いろんなトモだちほしーナ
☆のでー、ナ〜さん、お手紙くださいっ。
★まおちゃんファンの人、近くに住んでいるといいなぁ。
☆かんけいなしデス。プリクラ入れてくれるとうれしいデス。(福岡県 華、17才)

Ⓒ

友達募集!! アメリカのハイ・スクールに通っています。日本の事いろいろ知りたいし、新しい友達もたくさん欲しいです。オシャレにもすごい興味あります。良ければこんな私と友達になってください。日本行った時遊びに行かせてください。
(カレン・16)

Ⓓ

トモダチぼしゅう

こんにちは。私は中2で13才の子ですのとにかく、トモダチほしいのです。私がイましんでる1コロは、田舎でいつも、あー東京行きたいなと思ってマス。東京に住んでて、東京に、くわしい人または、話に詳しでいてしっつも私みたいに、東京にあこがれている人、募集しません。私と、FCになりましょう。プリクラOR写真入れてくれたらカンゲキです。(宮崎県、13才O型)

Ⓔ

私になろうよ

わーのトモダチ

ほしい!——Ⓜと私はそれにだれが、私に、オシャレやおしゃべりetc.いません。のんびは、100%。

(鳥取県 ルナ 14才)

Ⓕ

お友だちぼしゅう

おもしろくておもしろい人。
たくさんお手紙ちょうだい。
休みの日とかアメフラとかイケてる人だいかんげい。あそべる人だいかんげいよ。お手紙だけでもOK!!
男女・遠近・年れい問いません。
かわいい服もパンクきがっこいい服を持ってきてロリータも@よし。
ビンボっちな私だけれど、みんな仲良くしたって☆のMILKでね♥
(大阪府 てるりん 15才)

Ⓖ

友達大募集

友達募集です。別におもしろくなくてもいいです。いろんなこと相談したり、夢とか将来のこと話したり、遊びに行ったり、遊びに来たりしましょう。遠慮しないで、連絡ください。
(福岡県 シーザー女)

Ⓗ

FRUITSっ子のみなさん コンニチワ
私は高2の17才の女子です。
おしゃれ大好きな私と一緒にお洋服やお化粧のコトを語ってくれる子を大募集中です。男の子でも女の子でも、OKOKです。"こんなん作ったよ"とかこの服の作りあはき…"などにかくおしゃれについて私とおしゃべりしましょ♥


友だちに3のトコロちゃんは、パンクを3ッ、ゆびわを5コ作りました。(愛媛県 ももん 17才)

Ⓘ

友だちぼしゅう!!

おしゃれで!洋服づくりに興味がある人と!FRUITSを愛してる人!あんじが好きな人!トモだちなろ→!
SOPHIA 佐賀県 フルーツナ 19才

Ⓙ

FRiend 大募集!!!

私は沖縄県人です。高2の女、共におしゃれにくり出そうゾ。手紙も大歓迎♥人生に悩める者よ来た…。Come on。
男女とわずに、言っております。CLUBとかよく好く人も。ハードコア、BASS、テクノ大好き。でも無知識なので教えてくれる人、待ってます。
沖縄県・PINKLADY・高2☺

Ⓚ

ぼくらFRIENDになって下さい

FRUITSをお読みの皆様とお友達になりたいデス!!
オシャレな男の子とお友達になりたいデス!!
男の子は年齢を問わず、年齢も関係なく、どしどしご応募下さい!! プリクラ入りをくれたら100%!! メル友募集中!! 女の子もぜっったい返事書きマス!!

Ⓛ

友達大募集!!!

中3の女です。FRUITS大好きな私と友達になろう!!! 私は今、FRUITSを広めようとがんばってます。まずは"年賀状"な友だちをFRUITS娘たちに…。それでいろんな人たちと友だちになりたいです。なやみがあるならうちあけよう!! プリクラ交換そどんどんしよう!!! おんがくはCOCCOとGLAYとグブランキーとか…。へんじそくきます!!!!
いろおう「じゅけん生」だけど(涙)。
うし!!! よろしくう〜!!! (笑)まごご…!!!

★青森県★ゆりオ★

Ⓜ

おともだちぼしゅう♥

あのね、FRUITS読んでる人なら誰でもいいの。友だちになろうよ。
私はおしゃべりさんにどうどうとするのも苦手といません。通話もといません。
友だちになろう!なろう!
おてがみちょうだいな?えらばさだよ。返事だってぜったい返すもんね。
私はバカなので、でもし愛します♥
若いけどでも愛しまろ♥♥
おにーさん、おねーさん、おてがみください。
(福岡県 ラン・14才)

Ⓝ

友達大募集

FRUTSのみなおいっす!!
今日はみんなとタノシタイ事がありますです。僕は話の合う友達が超〜すくないです。FRUTSのみんなとなら話合いまくりだと思うので ゼヒゼヒ
お手紙下さ〜い!! どんなファッション分野でもOK!!
返事は1000%するのでよろしく!!
石川県 かずっぺ 18才

Ⓞ



友達募集のコーナー
お申込みの方法

友達募集の人は、編集部あてのハガキに
「友達コーナー」係と(16)を
明記してください。
お手本

〒150-0021
東京都渋谷区恵比寿
西1-16-8-5F
ストリート編集室
「友達コーナー」係
16

→

ハガキの裏の半分に、友達募集のかんたんなメッセージやイラスト(○○県、ペンネーム、年令を入れてね。)を書いてください。
下半分には〒番号、住所、氏名、電話番号を必ず書いてください。
この部分は掲載しません。

友達募集!……
……
……
東京都.FRUiTS.18才
〒○○○-○○○○
住所、氏名、
TEL

→

毎月、受け付けます。今月の申込の〆切は、
9月4日必着
応募者多数の場合は、抽選。

友達になりたい人は、編集部あてに
「友達なりたい」係の、例えば
の○さんと明記してください。(15)—(A)

〒150-0021
東京都渋谷区恵比寿
西1-16-8-5F
ストリート編集室
「友達なりたい」係
15—? ○○さん

こちらの〆切は、
9月22日必着
なるべくハガキで送ってください。(手紙の場合は定型サイズの封筒を使ってね。)

→ 1ヶ月後編集部でまとめて、友達募集した人にお届けします。少しめんどうな手続きになるけれど、安全で楽しい**交流**をしてほしいという編集部からの願いの表われですから。でも希望者が少なかったり、いなかったりしても悲しまないように。

注意!・募集は毎月、行います。毎回15人位掲載を予定しています。・例えば(16)と書いて、No.16に掲載されなかった場合、はずれです。ごめんなさい。また新たに応募してください。・あせらないでね。殺到するとそれだけ抽選ではずれる確率が高くなるぞ。
・必ずハガキで応募してください。(説明通りでないと無効になってしまいます。)・文字やイラストは黒のペンで書いてください。(印刷の都合上)

すけど、既成概念をあまり気にしない人たちが集まっちゃったんで、そういう意味でアニメから離れたアニメになってると思うんです。だから一般の人たちっていうか、アニメーションだけしか見ない人たち以外の人が見ても、なんだコレ、変なアニメって、とりあえず見ることに参加してもらえたり、作品の中にある何かしらのテイストを感じてもらえたりとか、触発されたりとか、考えることがあったりとかすると思います。僕らのビジネスフィールドってすごく狭い、といっても20〜30万人、潜在的には50万人位のマーケットなんだけど、やっぱりちょっと特殊で、彼らは客としてのプロ的な意識があるんですよ。結構批評家的な目というか、ちょっとプロすぎる目で見られてるところがあって、ありがたくもあり、怖くもあるんですけどね。ただ、今の業界全体としては、それに呼応しながら作ってるようなところもあるんですよ。お客さんに楽しんでもらうということで、そういう意見も大事にしてはいきたいんだけど、これをやったらお客さんが喜ぶだろうっていうのだと、作品としての意識がうすいかなっていう気もちょっとしてて。ユーザーを切り離すということじゃなくて、逆に自分たちへのいましめとして作りました。僕らとしてはこういう作品を作ったんだけど、「みんなどう?」って感じです。映画だとサスペンスがあったりアクションがあったりするように、いろんな楽しみってあるじゃないですか、アニメがカワイイ女の子のキャラクターが出て、キャーとかっていう楽しみ方だけっていうのはちょっと狭いかなって思ってるんです。なおかつそれが商売としてうまくいけば、この業界ももっともっと広がるかなーんて思ったりして(笑)。



FR　12チャンネル(テレビ東京)のアニメは、初回は全部チェックしてるんですよ。「エヴァンゲリオン」をリアルタイムで見れなかったので。

上田　僕もリアルタイムでは見てなかったです。

FR　その失敗があるのと、時々面白いのがあるので、チェックしてるんですけど、「ロビン(レイン)」の1話目をたまたま見て、「すごい、なんだろう」って。すごいテンションだったので、これはこのまま続くのかなあって。今まだ4話目で、どこまでこのテンションで続くんだろうって、楽しみなんですけど。オープニングのタイトルからすごかったし、最初にいきなり女子高校生の自殺からのスタートだし。こわくなかったですか連鎖反応とかって。

上田　一番こわかったのは、放送前に同じことが起こることですね。(笑)それで放送を止めることはさすがにないとは思うんですけど(笑)。「ロビン(レイン)」っていう作品でやってることって、いたってシン

企画・原案：production2nd／監督：中村隆太郎／脚本：小中千昭
オリジナルキャラクターデザイン：安倍吉俊／キャラクターデザイン：岸田隆宏
美術監督：佐藤勝／色彩設定：西表美智代／音響監督：鶴岡陽太
プロデューサー：uedayasuyuki／アニメーション制作：トライアングルスタッフ
デジタルエフェクト：レア・トリック＆SR-12W／製作：PIONEERLDC
音楽：仲井戸"CHABO"麗市
／OpeningMusic「DUVET」：boa
／EndingMusic「遠い叫び」：仲井戸"CHABO"麗市

なので、呼び出させてもらって「やんねえか？」（笑）っていうことで。

FR　その人はどんな人なんですか？

上田　もともと実写の方の脚本家なんですけど、ウチのタイトルでもアニメを一度やってもらったんですけど、特撮の脚本もけっこうやってます。ウルトラマンティガのテレビや、これからやるウルトラマンもやってたりとか。弟さんが映画監督なので、兄弟でいろいろ活躍してます。　それから、二年程まえに「ノエル」っていうギャルゲーっていうかコミュニケーションゲームを作ったとき、僕は現場のディレクターで、シナリオとか中身の方をやっていたんですけど、そのときのゲームのディレクターで中原っていうのがいて、彼を巻き込んで、ゲームとテレビ映像の両方の企画ということで、一年半前に立ち上げたんです。



FR　1年半の準備期間だったんですね。

上田　そうですね。企画のところからだと2年たちますね。急いだつもりだったんですけどね（笑）。企画当初は、自分の精神状態もあって、わりとギスギスした、とんがったカンジだったんですけど。テレビ関係の色々な人が入ってきて、たぶん本当は僕自身が作りたかった人間的なちょっとクサくなっちゃうような部分を引き出してもらったようなカンジで。最終的にいいドラマになっていて、非常に満足しています。自分で企画しているので、自分だとテレがある部分が、逆に外部のスタッフが加わることで、「ああ、そうなんだー」って。もともと原案コンセプトの部分は僕が書いてはいるんだけど、参加してくれているクリエイターの人たちがどんどん広げてくれて。昔の自分の元の原稿を読んだら、まるで別の作品みたいなくらいでね。まぁそれだけ力のあるクリエイターが集まってくれたから。

FR　原案、企画はproduction 2nd ってなってますよね。

上田　それは当時僕のいた部署が、制作2課というところで。　いわゆる直訳ですね（笑）。もちろん、それだけじゃなくてこの作品がアニメーションのメインストリーム的なところとはちょっとはずれた作品だったので、第二レーベル的な意味合いもあって、プロダクションセカンドって名付けました。それに僕は会社員なので、自分の名前を書くのもなんだなあって思ったので。レーベルっぽくやるのもいいかなって。
「Lain（レイン）」はアニメーションらしくないアニメって評価されてるんで

うお話ですね。

FR　なるほど。そうしてみると、脚本家の小中さんは、完全に自分の中に入れちゃって展開してますね。

上田　そうですね。小中千昭にしても、中村監督にしても、作り手が寄れば、それぞれの思い入れでそれぞれのパーソナリティーが出来るじゃないですか。それが三人とも限りなく一緒なくらい共通認識がうまくとれてて。作業中に、この子ってこういうことは言わないとかっていう打ち合わせをしたことがなくて。思ってることが同じで。まぁこうだよねって。制作作業上、すごく助かりましたね。僕が一番最初にこうしたいんだって言ったときのことを、僕が言った以上にくみ取ってくれて、小中千昭がキャラクターをどんどん作っていって。それをさらに中村監督とかが吸い上げていって。僕の中では発見できなかった玲音像を僕に戻してくれたりとか。

FR　ファッション感覚もすごくいいですよね。安倍さんがやってるのかな、左の前髪だけ伸ばして、×印にゴムバンドで止めてとか。

上田　あれは、僕からのオーダーで、普通の女の子にしたかったんですよ。ただ彼女が普通じゃないところをなにかしらもたせたかったのと、左右対象っていうバランスを崩したかったっていうのがあって。じゃあ、髪が片方だけ伸びてる、それはいわゆる電波系で、こっちの耳からなにか聞こえてくるのがいやっていう、なんとなく彼女の中でのオマジナイっていう裏設定はあるんですけど。

FR　なるほど。いいですね、それ。

上田　ただそのアンバランスさと普通さで、片方の髪が伸びてるのを普通に見えるように描けって。むちゃなオーダーなんだけど。わりと違和感なくできたかなって。

FR　あと、部屋着はクマのかぶりもので。



上田　あれは、僕からのオーダーで、普通の女の子にしたかったんですよ。ただ彼女が普通じゃないところをなにかしらもたせたかったのと、左右対象っていうバランスを崩したかったっていうのがあって。じゃあ、髪が片方だけ伸びてる、それはいわゆる電波系で、こっちの耳からなにか聞こえてくるのがいやっていう、なんとなく彼女の中でのオマジナイっていう裏設定はあるんですけど。

FR　なるほど。いいですね、それ。

上田　ただそのアンバランスさと普通さで、片方の髪が伸びてるのを普通に見えるように描けって。むちゃなオーダーなんだけど。わりと違和感なくできたかなって。

FR　あと、部屋着はクマのかぶりもので。

上田　あれはテレビの方のキャラクターデザインの岸田くんと中村監督の設定なんだけど、あのクマちゃんも単にユーザーへのサービスじゃなくて、一応意味があって、家庭で孤立する中で、彼女が家族と対立するときの戦闘服。お父さんと真剣な話をするときにあれを着て行くっていう設定ではあるんです。彼女の身を守るプロテクターみたいなもの。外出のときは、クママークの帽子です。

FR　ああ、そうですね。面白いなあ。

FR　時代的には、どういう時代の話なんですか？

上田　ネットワーク関係で、今よりもちょっと進んだくらいの、5年から10年先の僕らの生活という設定をしてます。ネットワーク環境以外はあんまり変わらないんじゃないかなって。ネットワーク環境だけが進んでるちょっと近未来。今とリニアにつながっている時代。

FR　すごくコンセプチュアルな作品だと思うんですけど。キーワードとして「境界って、そんなにきちんとしてないみたいだよ」とか。

上田　それは小中千昭先生の表現ですね。　僕は思いっきりルポルタージュっていうか、電波系の方に行ちゃったんだけど。彼はエンタテイナーだったりするんで。彼の思想で。精神世界と現実世界の中間に位置してる国みたいな設定に持ち込んでいるんですよ。変にSFじみた設定にしないでそこまで持っていけてるっていうのは、彼ならではの力かなと。僕がやったとしたら、もっとリアルなネットワークとの中で見える精神的な錯覚みたいな、ひたすら現実的な話になっちゃうんで。そのへんはうまいですね。自分のスタッフをほめるのもなんですけど、おみごとですね。

ブルで、ある女の子のドラマでしかないわけなんですよ。その回りでの自殺や死は、彼女の生に対する表現であって、あの死自体はそれほど重要じゃなくって、それよりもドラマ全体では、逆に生が感じられるはずだろうって。テレビ局にもＯＫをいただいて。そういう深い理解がなかったら放送できなかったかなと思います。

ＦＲ　やっぱり、問題だったですか。

上田　常識的に、今の規制とか、Ｖチップ導入という流れの中では、なんでコレを無理矢理放映するんですかっていう話になっても不思議じゃない。実際、他の作品で、あれもＮＧなの、これもＮＧなのって見てて、今回の交渉にしてもＮＧなのは端からわかってるけど、でも違うんだ、全１３話で描きたいことは、こういうことなんだ、だから必要なんですって説明して。幸い担当に恵まれて、理解していただいたんで放送出来ました。

ＦＲ　２話目で、クラブでの銃の乱射とかありましたよね。（笑）

上田　あれは、そうとう苦労しました。



ＦＲ　そうですか。（笑）あと小さな虫みたいな機械を飲んで、

上田　アクセラを飲んで、トリップ状態になって銃を乱射してるわけですから。それは常識的に考えて、ドラッグやって乱射してって犯罪じゃないかっていう話ですよね。

ＦＲ　機械ドラッグなんですか、あれは？

上田　そうですね。

ＦＲ　ああいう発想って、初めてなんですけど。

上田　ナノテクという、今のチップよりもさらに細かく神経繊維みたいな形のチップの開発って実際にあるんですよ。

ＦＲ　あれは、上田さんの発想なんですか？

上田　いえ、あれは脚本の小中千昭の発想ですね。技術的な開発って世界中で進んでるわけで、そういった学術書からの話題っていう元ネタはベースにありますけど。そういうのを持ってきてるのは彼ですね。僕のレベルでは、そこまで細かくはなくて、普通の人よりはちょっと専門用語の理解があるくらいで。

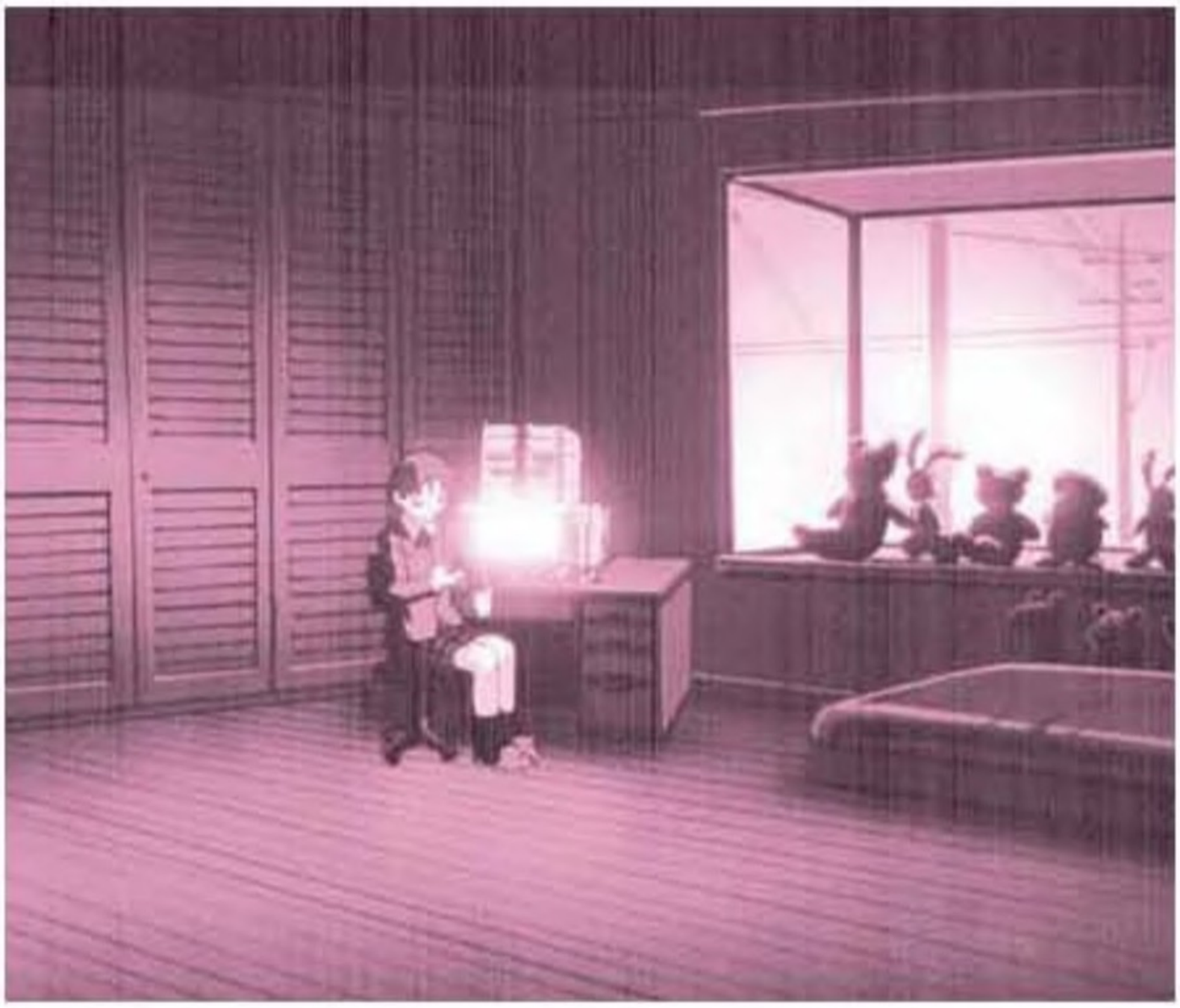
ＦＲ　上田さんの原案では、そのトリップ状態になる部分は、どうなってたんですか？

上田　僕の原案には全くなくてですね、玲音（レイン）という女の子のお母さんの話から始まっていて、どうして玲音（レイン）っていう存在が生まれたんだろうっていうお話で。もともと作りたかった女の子って何かというと、僕らと価値観の違う女の子、一歩進んだ、と言っていいのかはわからないけど…。たとえば１０才年下の女の子だと、考えてることがよくわからないじゃないですか。価値観ってどんどん変わっていって、もっとすごい変化、たとえば身体がなくなっちゃったりとか、一生、人と会わない人とかっていったときにその人は僕らとは絶対的に違った価値観を持ってるだろうし。そのときに何が正しくて、何が自分で、というようにペースラインのところがはっきり見えてくるんじゃないなって思って。そのためにどうするかって考えてたんですよ。僕が原案で考えてたのは、なぜその女の子がそういう状況になって、そこで彼女は何を見つけていってということ。だから彼女のパーソナリティーは、解らない女の子。ただ、そこまで変貌するまでは、僕らと同じで、そこから先は瞬間瞬間の彼女の価値観で判断して生きていけばいいのかなって。そういう女の子の話ですね。自我の目覚めに価値観の変容みたいなのが重なって、とい

上田　イメージ的に電線っていうのがあって、電波的な意味でのモチーフでもあるんですけど、それ以上に電線の美しさみたいなのが、気に入ってて。イラストレーターで写真も撮れる人がスタッフにいるんですけど、その人と共同で2000枚くらい電線の写真を撮りまくって。それを背景の資料で使っているんで、電線にはかなり凝ってます。

FR　オープニングの音楽もエンディングの音楽もどちらもすごくフィットしてますよね。どこで探してきたんだろうって思ってたんですよ。

上田　そうですね。エンディングの方は、仲井戸〜仲井戸麗市／もとRCサクセションのメンバー〜さんにドラマの中のテーマに近い部分の音楽を作ってもらっていたので、その流れでエンディングもお願いして。この作品のために書き下ろしで作ってもらったんですけど、それがサイズが長すぎて、入らなかったんですよ。どうしようって。僕自身彼のむちゃくちゃファンだったり、テーマ的にすごく近いところもあったので、仲井戸さんの出されてる詩集の中で今回の作品にテーマ的に近いものをピックアップして、それでRCサクセション時代の「遠い叫び」にしましょうっていうことになって。ただ仲井戸さんからの要望で、「レット」を理解した上で録り直したいということで新たに録り直してもらったんです。それであのバージョンが生まれたんです。番組中の音楽もかなり気合いを入れてもらってて、録音中に「レット」のポスターを貼ってくれてたりして、嬉しかったですね。



FR　エンディングの曲を最初に聞いたときはびっくりしました。詩もいいので、っていうかFRにしては作っていて、あの世代に感じる思い、かわいそうっていうか、気の毒っていうのとスゴイなっていうのが混じったような感じがあって、それがバシバシ詩にでてるし。あのちょっとサイバーなアニメの後にアコースティックなあの感じってすごいなって思って。

上田　言葉がすごく人間クサイじゃないですか。

FR　歌い方もね。

上田　僕自身かなり泥臭い人間だったりするんで、僕の中では一番しっくりしてるし、自分のスタンスに一番近い楽曲ですし。だからめちゃくちゃ嬉しいし、誇りに思うし。ただこの作品のために作ってもらったもう一曲もものすごく好きなんです。それは東芝さんからのシングルCDにカップリングされて出てるのと、うち〜バイオニアLDC〜からのサントラCDにも入ってるので、世の中には一応出るので大丈夫です。オープニングのBOA（ボア）の曲の方は、オープニングは誰にしようっていうことで、音楽出版とか色々あたって、その中の一つで。音楽で始まってい

FR　あと、ディテールで、NAVI（現代のコンピュータにあたる情報端末で、ネットワークとつながっている。）の画面のデザインとかも良いデザインですよね。

上田　ちょっとマック傾向が強いんですけど（笑）。

FR　進化した感じですよね。そこまで凝るのはすごいなと。

上田　通常のアニメだと凝れない部分なんですけど、今回アニメーション全体を、作品っていう観点で見つめ直そうっていうことで、そういうディテールの部分とか、デジタル編集をうまく使ってやっていこうと。ネットワークものをやるにあたって、疑似OSを作ろうかっていうレベルでやってたんですけど。それだと対応できない場面も出てくるので、場面場面で作っていったほうがいいだろうって、せっせと作って、はめていってるっていう感じです。

FR　その辺ってだいじですよね。スタートレックDS9のコンピュータ画面もいいんですよ。

上田　けっこう映画とかのレベルだと頑張ってるんですけど、テレビアニメだとなかなかそこまで頑張りきれないんです。今回たまたまスタッフに恵まれてそういうことができるようになったので。

FR　画面デザイナーの職業とかできそうですよね。

上田　あと、気にしてたのが、音楽ですね。今のアニメーションって20分あったら、18分音楽を使ってたり、音楽浸けになっちゃってて、効果的なときは音楽の力ってすごいので、もちろんいいんですけど。もともとアニメーションって記号なので、情報量が少ないので、ある程度音の助けが必要なものではあるんですけど。ちょっと安易に音に頼ってないかなぁって思ってて。必要のないところには音をつけない、必要だから音楽があるっていう制約っていうか、そうつけてほしいって伝えました。もう一つはレイアウトですね。



FR　レイアウトって？

上田　画面のレイアウト、カメラでいう…

FR　フレーミングみたいな。

上田　なんでレイアウトかっていうと、好きなように気に入ったレイアウトをとればいいじゃんって普通思えるんですけど、アニメーションの場合ってレイアウトがあまりにも難しいと、描けなくなっちゃうんですよ。動画って前の線をなぞって、ちょっとだけ変えて動かすので、レイアウトがあまりに変なパースに曲がってると、制作できなくなったりとか、絵が崩れちゃったりとか。そこだけ日数が掛かっちゃったりとかするんで。レイアウトっていうのはすごく大事な作業になるんですよ。ただ、そういう制約に縛られて、本当はこう見せたいレイアウトが、大変だからってごく平板なレイアウトになるっていうのがよくあるんですよ。それを専門に担当する人がいる環境が整わないと、なかなかできることじゃないので、レイアウトをかなり重要視して作業してほしいと思って、専任をつけたりしてるんです。

FR　意識しては見てなかったんですけど、それは感じますね。それと、学校に行く風景がハイキー（露出オーバーぎみの、まぶしい感じの絵柄）になってたりとか。

上田　そうですね。

FR　そういう細かいところの作り方がすごいですね。

上田　どうしてもテレビアニメーションって、スケジュールとの戦いだったりして、100%ここまでやりたいっていうとこまではできないんですけど、そこのギリギリまで頑張れてるかなって思ってるんです。

だから。・・うーん。実はほんとは良く知らない（笑）。会うと仕事の話しかしないから。

ＦＲ　上田さんはお幾つなんですか？

上田　僕はまだ２９です。まだ（笑）。

ＦＲ　ＡＸ（「ｉａｘ」）の記事が連載されているアニメ雑誌／ソニーマガジンズ発行）の９月号になんか難しいことを書いてましたけどね。「フーコーの狂気」。

上田　ああ、ついに出しやがった。彼は確信犯な人間ですから。（笑）事前に原稿がメールで送られてきて、もともとかなり確信犯的なプロジェクトではあるんですけどね。

ＦＲ　まだ４話で先は長いですよね。

上田　そうなんです。先は長いです。

ＦＲ　全部できてるわけじゃないですよね。

上田　今日の作業が７話とかなので。

ＦＲ　けっこうハイスピードでやらなきゃいけないんですね。

上田　そうですね、毎週ですからね。

ＦＲ　そんなにストックがあって始めるわけじゃないんですね。

上田　本当はストックができるくらいのスケジュールを組んでたんですけどね。あっという間になくなりましたね。一話目とかやっぱりかかりましたね。

ＦＲ　ゼロから作るって大変ですもんね。

ＦＲ　ゲームの方は９月に出るんでしたっけ？

上田　延びまして、１０月になりました。ゲームの方は、簡単に言ちゃうとデータベース。玲音（レイン）のいろんな情報が入っていて、それをユーザーが取っていって、何を感じるかっていう。めちゃくちゃ（笑）。それでゲームかよって。ソニーさんから最近、「やるドラ」っていうのが出て、やるドラマっていうことでドラマを参加形で見せるというものなんですけど、時系列はあって、それが分岐していたりとかなんですけど。僕が今回ゲームの方でやろうとしたのは、それを全部切っちゃおうと。時系列を切って、その事象事象を見て、それに関連するテキストとかを見たときに、何を感じるか。イマジネーションがどこまで膨らんでいくか。彼女を好きになってくれたら、どんどん探っていくだろうし。好きな人のこととか、何を考えているのか知ることは楽しいことだと思うし。そういうすごくメンタルなゲームなので、買ってもらった人が見たときに、「それゲームじゃねえよ」って批判は出まくるでしょうね。そういう批判には正直に「すみません」って言うしかないですね。僕等はカテゴリーはともかく、作品としていいものを目指して作ってますけど。まぁ、普通の人にはお薦めできません（笑）。



ＦＲ　面白そうだな。この絵（ＡＸに載っていたイラストで、壊れたロボットがベルトで吊られていて、それに玲音（レイン）が触れている）って何か関係があるんですか？

上田　それはゲーム中のお父さんですね。

ＦＲ　へー。

上田　ゲームの話の中では、お父さんの出張中に、だんだんネットワークとつながっている自分に気づき始めて、変わっていく。離婚してお父さんがいなくなっちゃって、ネットワークに入ってどんどん知識を増やしていって、それでロボットを作り始める。それは父親探し的な意味で、お父さんを作る。それで「お父さん」なんです。　実は、テレビとゲームって登場人物がまるっきり違って。それをＯＫした理由は、このプロジェクトが根本的には玲音（レイン）っていう存

いのかっていうのもあったんですけど、わりとボーカルのジャスミン・ロジャースの声が良かったっていうのと、暗さ加減が良くて。ちょうど良かったかなって。楽曲自体も良い曲だったので、これでいきましょうって、ポリスターさんのご協力のもと、CDシングルが発売されて、品切れになってるらしいですよ。

FR　すごく良い曲ですよね。

上田　彼女は今21オなんですけど、あれは18すくらいのときにレコーディングした楽曲なんですよ。だから2・3年前のレコーディングになるんですけど、カレッジバンドっぽいノリはあるけど、ボーカルのジャスミンの力はすごいなって。2・3年前でこれだけ歌えてたら、今はすごいんだろうなって。

FR　玲音（レイン）の声優の声も良いですよね。ぴったりで。

上田　そうですね。清水香里ちゃんっていう子で、通常は声優さんがやるんですけど、今回はわりと普通っぽさっていうか、声優さんにお願いすると、作ったキャラクターっていう匂いがどうしても出てしまう。もちろんそうするのが彼らの仕事なんですけど。どちらかっていうと素人でもいいから、生な感じがほしいなと。でも本当の素人だと、やっぱりプロの方がいる特殊技術の世界なので、そこそこレッスンしていて、歌とか声のお仕事をしていないときびしいこともあって。30人程オーディションして。彼女はアイドル予備軍みたいな感じで、歌や人前に出たり、声を出す仕事をしていたので、安定していたし、僕のイメージにも一番近かったので。

FR　ぴったりですよね。

上田　彼女はすごく明るい14オで、今は15オになりましたけど。玲音（レイン）と同じ年代で。

FR　すごく魅力のある声ですよね。



上田　声優としては、初めてなので、デビュー作になります。

FR　まだ4話なんですけど、（このPROJECTSが出たころには6話目が終わっている）、話はだいぶ変わっていくんですか？

上田　一話ずつとらえると、ネットワーク系のSFっぽいお話とか、怖い女の子がでてくるホラーの要素とかあるんですけど、13話全体では、玲音（レイン）っていう女の子のごく私的なドラマが流れてるので、ぜひ13回おつきあいしていただければ、そういったドラマの部分でも、作品として見れるかなと。

FR　怖いシーンは本当に怖いですよね。（笑）

上田　そうですね。

FR　幽霊みたいなシーンとか、あと玲音（レイン）のお母さんの顔が怖いですよね。

上田　お母さんがすごい。（笑）無機質家族。

FR　すごくいやな顔をしてる人ですよね。

上田　それはもちろん、ただ怖いだけじゃなくってお話の中の理由があるんですが、必要以上に怖いっていう話もありますけど（笑）。

FR　お母さんがお父さんとキスしてるシーンもすごいし。

上田　たしかにあれは普通の家庭ではないです。（笑）脚本の小中千昭氏が、日本ホラー界で小中千昭を知らない人はいないだろうっていう人なので。

FR　そうなんですか。なんか本物の怖さがありますよね。

上田　クリエイターの中の評価は高いですね。幸か不幸か、爆発的に名前が売れる代表作がないという。脚本家歴もずいぶん長い。

FR　お幾つの方なんですか？

上田　38オとか言ってました。24オくらいから脚本を書いてるはず